

- 1 コロナ禍2年目の甲南大学FD活動
- 2 オンライン授業に関する研修会・ワークショップ報告
- 3 「AI・データサイエンス入門に関するFD研修会」報告
- 4 2021年度甲南大学FD委員会活動報告

発行:甲南大学FD委員会 2022年3月

1 コロナ禍2年目の甲南大学FD活動

甲南大学FD委員会委員長 高龍秀

2021年度に本学では、次頁以降で紹介されるように、さまざまなFDシンポジウム、研修会、ワークショップを開催することで、コロナ禍での授業改善に向けた取り組みを行った。この研修会などを通じて、多くの先生がコロナ禍における授業運営で実践されている創意工夫が全学的に共有され、授業改善のヒントを得る有益な機会になっている。

半期ごとに実施している授業改善アンケートの大学全体の集計結果について、2019年度前期・2020年度前期・2021年度前期・2021年度後期の推移を以下に示している。ここからいくつかの特徴を把握する事ができる。第1に、「この授業の履修にあたり、シラバスを読みましたか?」との質問に読んだという回答の比率がコロナ禍を経て、2021年後期まで継続して上昇している特徴がある。2020年度前期にすべての授業がWeb活用授業となりシラバスを読まない授業を履修できないなどの環境変化の影響が現在まで続いている。したがって、シラバスで授業内容や履修方法を的確に記載する必要性が高まったと同時に、学生の学習意欲を高めるような教育効果をよく考えたシラバスを作成する重要性が高まったともいえる。第2は、学生の出席率が高まり、予習復習時間が増大した点である。表2と表3をみると、出席率と予習復習時間は2020年度前期に大きく上昇し2021年度にはやや低下しているが、コロナ禍以前に比べて、コロナ禍後に学生の出席率が高まり、予習復習時間が増大したという特徴を指摘できる。第3に、表4でみるようにコロナ禍という環境変化の中でも、授業全体に対する満足度は継続して緩やかに高まっているという点である。表5の「この授業を通じて、知識が深まった、能力が高まったと感じますか?」という質問に関しても、満足度とほぼ同様の推移を確認できる。2020年度から21年度にかけてコロナ禍でWeb授業が一定の比率で導入される中で、学生はオンラインを活用して授業出席率を高め、Web授業で必ず課される何らかの課題に取り組むために予習復習時間を伸ばし、総合的な結果としては、一定知識が深まり能力が高まったと感じ満足度がやや高まったという状況と推察する事ができる。

しかし課題としては、教員に対して「質問したことがない」という回答が、2019年度前期20%から2020年度前期25.8%、2021年度前期27%と上昇している点がある。Web授業が増える中で、人物教育を掲げる本学として、教員と学生の学びの接点をどう保証するかという課題があるともいえる。また、以上の統計は全学集計値でのものである。一部の学生からの意見であった、ある時期に様々な科目のレポート課題が集中するなど個別の問題などを解消し、半期を通じて望ましい学習計画を立てることが出来る環境を保証することも重要であろう。これらを参考にしながらすべての先生方と協力し、本学の教育の質向上に努めていきたい。

表1 この授業の履修にあたり、シラバスを読みましたか?

	十分読んだ	ある程度読んだ	あまり読んでいない	読んでいない	あることを知らない	平均
2019前	21.9%	47.5%	21.7%	7.4%	1.4%	3.81
2020前	31.9%	55.1%	10.9%	1.9%	0.3%	4.16
2021前	38.5%	49.7%	9.7%	1.8%	0.2%	4.25
2021後	43.1%	45.4%	9.4%	1.9%	0.1%	4.30

表2 この授業をどのくらい休みましたか?

	0回	1~2回	3~4回	5~7回	平均
2019前	53.5%	35.8%	9.7%	1.1%	4.42
2020前	80.6%	16.2%	2.8%	0.4%	4.77
2021前	79.0%	18.0%	2.6%	0.4%	4.76
2021後	68.8%	25.8%	4.7%	0.7%	4.63

表3 毎回平均してどれくらいこの授業の予習、復習または課題のために時間を使いましたか?

	2時間以上	1時間30分程度	1時間程度	30分程度	0時間	平均
2019前	6.6%	7.6%	16.1%	31.0%	38.8%	2.12
2020前	12.4%	17.2%	33.2%	29.2%	8.1%	2.97
2021前	10.8%	15.1%	32.7%	32.9%	8.5%	2.87
2021後	7.8%	11.0%	29.7%	38.1%	13.4%	2.62

表4 総合的に判断して、この授業は満足できるものでしたか?

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そうは思わない	平均
2019前	42.6%	36.8%	15.2%	3.5%	1.9%	4.15
2020前	48.8%	35.7%	9.1%	3.7%	2.7%	4.24
2021前	55.5%	32.7%	7.5%	2.4%	1.8%	4.38
2021後	54.2%	33.2%	8.6%	2.3%	1.6%	4.36

表5 この授業を通じて、知識が深まった、能力が高まったと感じますか?

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そうは思わない	平均
2019前	41.6%	38.3%	15.2%	3.2%	1.7%	4.15
2020前	45.9%	40.9%	8.4%	2.7%	2.0%	4.26
2021前	52.1%	37.2%	7.4%	2.0%	1.4%	4.37
2021後	50.7%	37.2%	8.6%	2.1%	1.3%	4.34

2 オンライン授業に関する研修会・ワークショップ報告

「オンライン活用授業に関するFD研修会」報告

報告者：文学部 浜本隆三

2021年9月14日(火)、「オンライン活用授業に関するFD研修会」と題して甲南大学FDシンポジウムがZoomによるオンラインで開催され、3名の登壇者よりコロナ禍での授業実践例の報告があった。



一人目に登壇したマネジメント創造学部のJones Brent先生は「Examples-Online Classes」と題し、CUBEで活用中のMoodleという授業マネジメントサイトをベースにした、Organization Tools(授業管理)、Collaboration Tools(授業参加)、Association Tools(学生評価)に関するデジタル・ツールの活用事例を紹介した。

Brent先生の担当科目「国際社会と日本」での活用例を軸に、Organization Toolsとして修正や資料配布が容易に行えるGoogle Docsの利用や、Collaboration Toolsとしてグループワークを円滑に行うためのGoogle Workspace、オンライン上のホワイト・ボードで学生がコメントを貼り付けていくことができるPadletの活用例などが紹介された。Assessment Toolsとしては、テスト実施ツールとしてGoogle Formsと、プレゼン・コンテンツ制作発表用としてAdobe Sparkの紹介があった。Google Formsはオンライン上で選択肢を準備して択一試験を行うことができるツールで、結果が即座に出せるために、試験を受けた学生に向けてすぐにフィードバックが行えたり、学生の苦手な箇所や理解が不十分な箇所を視覚化して把握できたりする利点があるという。また、ショートビデオやウェブコンテンツを簡単に制作できるAdobe SparkやFlipgridといったツールの紹介もあり、リサーチ結果の報告やBook Reportの課題での活用の可能性が紹介された。

二人目に登壇した文学部の西川麦子先生は、「Webを活用したライブな授業空間作り」と題し、300人ちかい大人数の講義向けの「トーク形式Webinar」、フィールドワーク実習科目で行う「自由参加のZoom座談会」、ゼミで導入した「選ばれる発表会」の3つの実践事例を報告した。

西川先生の工夫の特質は、オンライン授業でいかにライブ感とリアリティを生み出すか、という点にある。300人ちかい大人数の講義である「メディア文化論」では、Webinarを用いて複数の教員がトークを行うことで、一方通行の講義授業にはないライブ感の創出を試みた。フィールドワークの実習科目では、オンデマンド素材を準備する一方、授業時間中に座談会を催し、オンラインではやり取りしづらい疑問や質問に答えるとともに、ファシリテーター役と教員との気軽なトークを通してリアリティを生み出すという、オンデマンドとリアリタイムを合体させるアイデアが披露された。ゼミでは学会の大会と同様、Zoomを使った複数人が同時に行う発表会を実施するアイデアが紹介された。発表内容によっては聴講者の人数に片寄が生じることもあるが、そこにも面白さがあるという。

三人目に登壇した共通教育センターの千葉美保子先生は、「共通教育科目におけるオンライン授業実践」と題し、共通教育科目「共通基礎演習」と大人数科目「ベーシック・キャリアデザイン」での実践事例を、「複数担当科目におけるオンライン授業の実践」「複数教室による中継発表の実践」「大規模授業におけるハイフレックス型授業の運営」「オンライン授業をすすめるにあたって」とテーマ分けして報告した。

プロジェクト科目の「共通基礎演習」は、2~3名の複数教員によるTeam Teachingで運営される。科目全体では15名の教員が同一科目を担当するため、教員の負担および不安の軽減と科目全体の質の保証が課題となった。担当者らは、授業運営のためのティーチングガイドとその解説動画を作成したうえで、授業用スライド資料の作成、グループワークを指示するための共通のチャット文の用意などの丁寧な事前準備を行い、授業期間中には週に1度ミーティングを開いて課題の共有・検討を行うとともに、OneDriveを使ってパワポ資料などの共有を行った。大人数科目の「ベーシック・キャリアデザイン」では、対面とオンライン

の同時配信をおこなうハイフレックス型授業の実施事例が報告された。LA(学生アシスタント)の活用や相談会の開催などの工夫を紹介しつつ、ハイフレックス型では対面とオンラインの人間関係づくりに課題があるとの指摘もあった。

各報告のあとに設けられた質疑応答の時間では、研修参加者よりさまざまな質問が寄せられ、活発な議論がみられた。参加者は90人を超えて、オンライン授業の工夫に対する関心の高さがうかがえた。コーディネーター役でもあった千葉先生がご指摘の通り、コロナ禍はこれまでの授業コンテンツを見直す機会となったといえよう。これを機会に、学部の垣根を越えて全学的にオンライン、対面に限らず、さまざまな授業アイデアやノウハウを共有していくことが重要といえる。本研修会はその先例として、本学教員にとって大変に有意義な機会となった。

「後期に向けてのFDワークショップ」報告

報告者：知能情報学部 山中仁寛

2021年9月14日(火)、Zoomによるオンラインで、「後期に向けてのFDワークショップ」と題して後期に向けてのアンケート調査結果報告と意見交換が行われた。

ワークショップは、授業改善アンケート

および共通教育科目「共通基礎演習」受講生を対象としたオンライン授業に関するアンケート調査結果による情報提供、情報提供をもとに後期に向けての課題を共有する教員同士のお悩み相談グループディスカッション、全体での意見共有・まとめの流れで実施された。

オンライン授業に関するアンケート調査結果では、「授業を通じた知識・能力の変化」、「インターネット環境」、「Web授業欠席時の教員の対応」については、昨年度に比べて高い評価であったことから、受講生もオンライン授業に慣れ、教員も適切な対処をしていたことがわかった。一方、「授業を履修する上での教員の指示」、「課題の分量」については、昨年度から大きな変化はない結果であった。また、オンライン授業のメリットとしては「自分のペースで学習ができる、通学時間がかからず自宅等で受講できる」、デメリットは「通信環境の不調による影響、学習ペースがつかめない、コミュニケーションの問題」等が挙げられた。他にも、個別に意見が紹介されたが、まとめると通信環境や課題に関する問題は改善されているものの、授業内容や教員とのコミュニケーション、受講環境など、授業を受けるうえでの難しさを感じている学生が多いことがわかった。

次に、1グループ所属の異なる3~4名の4つのグループに分かれて教員同士のお悩み相談グループディスカッションが行われた。グループディスカッションは、「自己紹介と今の気持ちを共有するアイスブレイク」、「個人で課題や悩みを考える」、「課題や悩みをグループで共有し解決策の検討」の手順で行われた。

最後の全体共有では、

- ・オンライン授業での学生のビデオをonにする方法
- ・教材作成の難しさ、作成支援の希望
- ・受講生は、オンデマンドの授業資料を視聴しているか不安
- ・Webでのテストの実施方法

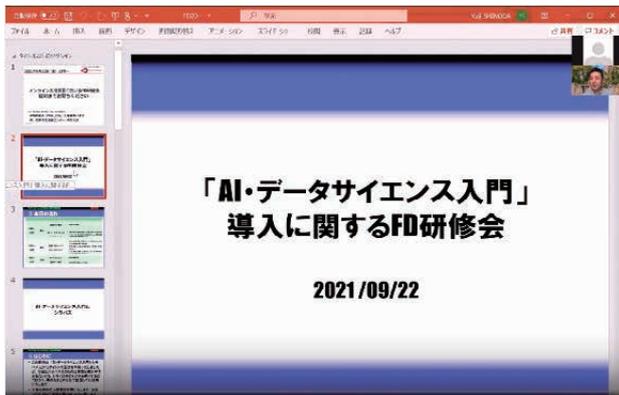
・オンライン授業で使用するシステムやツールは統一すべきかが、各グループから検討した内容として紹介された。これらについて、参加者による活発な議論行われ、様々な意見やアイデアを出し合った。先に行われた「オンライン活用授業に関するFD研修会」報告でも述べられているように、本ワークショップは本学教員にとって大変に有意義な機会であったといえる。また、オンラインでの授業において、多くの教員が不安を抱えながらも努力していることがわかった。



3 「AI・データサイエンス入門に関するFD研修会」報告

報告者：知能情報学部 松本茂樹

2021年9月22日(火)13時開始14時30分終了予定で、「AI・データサイエンス入門に関するFD研修会」と題して甲南大学FDシンポジウムが、全教職員(非常勤講師含)を対象としてZoomによるオンラインで開催された。



本FD研修会(所要時間90分)は以下のように時間配分されており、登壇発表者のおひとりでもある篠田有史先生(共通教育センター)が司会進行を務められた。篠田先生の他に講師を務められたのは、知能情報学部の関和広先生、共通教育センターの吉川歩先生である。なお、授業構成やシラバスについては引き続き検討が行われており、本報告の状態からさらに変更が加えられる可能性がある。

- 13:00～13:20(20分間) データサイエンス入門とシラバス
- ・文部科学省のMDASHリテラシーの紹介とこれに対応したデータサイエンス入門のシラバスの紹介、および授業の進行方法(篠田先生)
- 13:20～14:05(45分間) 授業で取り上げるトピックについて
- ・「導入」「選択」で紹介するAI・データサイエンスのトピックについて(関先生)
 - ・「基礎」のエクセルによる実習内容について(篠田先生)
 - ・「心得」で紹介するデータの扱い方・セキュリティの内容について(吉川先生)
- 14:05～14:30(25分間) ディスカッション
- ・全体質疑応答

FD研修会の開会にあたり、高龍秀FD委員会委員長からご挨拶があり、2022年度の後期に新規開講が予定されている「AI・データサイエンス入門」について理解を深め、情報共有・意見交換を行う場として研修会を設けたとの趣旨説明とともに、(開会時点で)40名を上回る方々に(Zoomで)ご参加頂いていることへの謝辞が添えられた。

FD研修会(90分間)の最初の20分「データサイエンス入門とシラバス」を担当された篠田先生から、AI・データサイエンス教育の背景についての解説があり、次年度開講予定の「AI・データサイエンス入門」が内容的には「数理・データサイエンス教育コンソーシアム」(文部科学省の肝煎りで2016年に発足)が提案する「(リテラシーレベル)モデルカリキュラム」を土台にしたものであることが説明された。また、「(リテラシーレベル)モデルカリキュラム2020年4月」は、「数理・データサイエンス・AIを、日常生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を主体的に身に付けること(中略)人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意思でAI等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できるようになること」を目指すものであり、同モデルカリキュラムの詳しい中身についても説明されたが、本報告では同モデルカリキュラムの全体が以下の四つのセクションから構成されるものであることを書き記すに留める。

- 「導入」社会におけるデータ・AI利活用(関先生ご担当)
- 「基礎」データリテラシー(篠田先生ご担当)
- 「心得」データ・AI利活用における留意事項(吉川先生ご担当)
- 「選択」オプション(関先生ご担当)

この4セクション構成は、「導入」・「基礎」・「心得」・「選択」の名称もそのままに本学で開講予定の「AI・データサイエンス入門」のカリキュラムにも反映される。

篠田先生は、文部科学省のMDASH(エムダッシュ)リテラシー(Approved Program for Mathematics, Data science, and AI Smart Higher Education、数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル))や同省のAI戦略についても概観され、本学開講予定の「AI・データサイエンス入門」がMDASHリテラシー申請の要件を満たすためには「全学部で卒業単位として認定される必要がある」ことを説明された。

このことも含め、開講予定の「AI・データサイエンス入門」の位置付けと基本形態に関して篠田先生が説明されたことの大凡は以下のとおりである。

- ・同科目の授業担当は知能情報学部と共通教育センターが協力して構築する
- ・MDASHリテラシー申請の要件から全学部で卒業単位に認定される必要がある
- ・同科目は「共通教育科目」内の「導入共通科目」として位置付ける
- ・授業はフルオンデマンド形式で実施する
 - 履修学生は指定期間内に教材を閲覧して課題を提出する
 - コースはすべてMy KONANの機能を用いて実装する
- ・教科書は北川源四郎、竹村彰通編「教養としてのデータサイエンス」講談社(2021)
- ・履修学生からの質問はMy KONANのQ&A機能で受け付ける
- ・成績評価はMy KONANのテスト(原則週ごとに実施)への回答を利用して行う

篠田先生から、「FD研修会の最初の20分について「AI・データサイエンス入門とシラバス」というタイトルで目次を準備いたしました。シラバスそのものは現在も検討中であることから、シラバスをお配りするのではなく、要点をまとめる形で整理してご説明いたします」との補足説明があり、さらに、シラバスの重要項目である「到達目標」が以下のとおりであることが示された。

「到達目標」

1. AI・データサイエンスの歴史および現状に関する基本的な理解
2. 最先端のAI・データサイエンス技術の実例を通じた今後の展望の理解
3. 表計算ソフトを活用した基礎的な統計処理によるデータの可視化方法の習得
4. 情報セキュリティに関する基礎的な知識の習得と、データの収集と適正な管理のための知識の習得

篠田先生のご登壇に引き続いての45分間は、「授業で取り上げるトピックについて」と題して、「AI・データサイエンス入門」の四つのセクション「導入」・「基礎」・「心得」・「選択」のそれぞれを担当される先生方から授業内容について熱の籠もったご発表が続いた。ご発表の先生方は入念に準備されたPPTスライド等の資料を画面共有しながら15回の各回の授業で取り上げるトピックについて詳しく説明された(結局、全体で約10分間の時間超過となった)が、本報告では先生方のご発表内容の詳細は割愛する。

FD研修会の最後に設けられた(25分間の)「ディスカッション」は全体的な質疑応答に充てられたが、研修参加者よりさまざまな質問が寄せられ、登壇者を交えた活発な意見交換・議論が行われた。特に、フルオンデマンド形式の授業における成績評価の方法についての多様なアイデアやノウハウに関する披瀝・情報共有・質疑は盛り上がりを見せ、「ディスカッション」パートは開講予定の「AI・データサイエンス入門」に関する検討のみに留まらず、汎用性の高いFDについての大変有意義な研修の機会を提供し得たと思われる。

最後に、教育学習支援センター所長の鳩貝耕一先生からFD研修会の閉会のご挨拶があった。

以上、甚だ簡単ではありますが、標記FD研修会の報告といたします。

4 2021年度甲南大学FD委員会活動報告

2021年4月～12月までの主なFD活動○7/8～7/21 前期授業改善アンケート実施○12/6～12/18 後期授業改善アンケート実施○7/21 FD委員会開催「2021年度FD委員の任務と役割について」「学部・センター等のFD実施報告について」○12/22 FD委員会開催「2022年度シラバスのチェックについて」○4/2 新任教職員ガイダンス開催○9/14 オンライン活用授業に関するFD研修会(Zoom開催)○9/14 後期に向けたFDワークショップ(Zoom開催)○9/22 「AI・データサイエンス入門」導入に関するFD研修会(Zoom開催)○各研修会・ワークショップの動画作成等

《学部・センター・研究科の主なFD活動報告(2021年4月～2022年1月)》

〈文学部・研究科〉

○8/30 第32回ピアラーニングについて考える勉強会「性の多様性を尊重する甲南大学の取り組みとは」(「授業作り」において、教職員が部署や立場をこえて大学内の異なる現場の状況を共有し、性の多様性に関する問題や取り組みについて、大学組織としてのガイドライン作りの必要性等を議論)○1/26 文学部FDプログラム：人間科学科による事例発表

〈理工学部〉

○4/14～6/23 生物学科教員相互の授業参観及び意見交換○6/4「生物学専門実験及び演習Ⅰ～Ⅳ」の授業改善アンケートの検討○7/28 物理学科第1回FD会議「授業参観による授業改善のためのFD会議」○7/29 機能分子化学科「学生実験のコロナ対応について」○9/3 物理学科第2回FD会議「授業改善アンケートの結果に基づく授業改善を図るための検討会」○9/8 生物学科「授業改善アンケートの結果に基づくFD検討会」○9/8 授業改善アンケート集計結果等について学生を交えた意見交換会及びコロナ禍の対応を含めた実験・実習方法の工夫について検討○9/15 機能分子化学科「令和2年度における授業改善アンケート結果に基づく学科内FD検討会」

〈自然科学研究科〉

○4/5 高压ガス使用者オンデマンド講習会○4/16 化学物質の安全な取り扱いについてZoomによる講習会○10/19 前期授業アンケートの分析及び今後の授業における改善点について議論

〈経済学部・経済学専攻〉

○9/8 コロナ禍における学生のストレスケア(2020年度の学生アンケートの集計結果、分析から学生の状況について報告)及びコロナ禍での学生のストレス状況について(学生相談室への相談件数、学生のストレス状況とその対処方法について)○10/27 ベストレクチャーシンポジウム(経済学部で実施しているベストレクチャー制度、2020年度ベストレクチャーに選出された4名の先生方が、授業で実施している工夫やノウハウなどを発表し、教育力の向上につなげる)

〈法学部〉

○6/25～7/13 授業参観及び授業検討会(2021年度前期法学部授業アンケートに基づく参観対象授業の決定。動画視聴による授業参観及び授業のあり方についての検討会)○12/22～1/18 動画視聴による授業参観及び授業検討会○少人数授業を除く中間アンケート及び期末アンケートの実施○ゼミ運営に関するアンケートの実施○教育実践委員会によるアンケート結果の分析と報告

〈経営学部・経営学専攻〉

○7/6 2020年度後期授業改善アンケート結果の検討(2019年度後期アンケート結果と比較し、2020年度後期結果・特徴の報告及び、新型コロナ禍以前と以後においてどのような変化が生じたかを検討、2021年度講義への反映方法等について議論)

〈知能情報学部〉

○6/8 成績不振者に対する特別指導報告(特に注意すべき点などについて議論、今後の教育活動について確認)○9/28 2021年度前期授業改善アンケートの分析・議論及び今後の教育活動について検討

〈マネジメント創造学部〉

○6/23 CUBE Accelerated Language and Academics (CALA) - Outline & Update / YouTubeで観るドラマFD教材「シリーズ大学の授業を極める」○9/22 授業改善アンケートを用いた授業改善

案の検討について(2020年度の全面オンライン授業をアンケート結果から振り返り、コロナ禍における授業評価と課題及び改善策の検討)○11/24 西宮キャンパスの情報化環境整備の検討

〈フロンティアサイエンス学部・研究科〉

○5/24 ①「科学英語コミュニケーション1」のアクティブラーニング型英語指導法について[徹底的少人数制で実施するアクティブラーニング型理系教育]意見交換②2020年度実施のオンライン講義に関する授業改善アンケートについて[Web活用授業の新時代FDの取組みについて]○6/7 ①第1回FDアンケート回答結果の報告と課題等②学生からの意見聴取について

〈共通教育センター〉

○4/13 他 基礎共通科目カリキュラム委員会(「共通基礎演習」を中心に、授業の内容及び方法の改善を図って、教育力の向上につなげている)○4/13 他 スポーツ・健康カリキュラム委員会(保健体育科目について、授業の内容及び方法の改善を図って、教育力の向上につなげている)○7/27 FD研修(2020年度より教員組織が拡大したしたことによるFD研修。「共通基礎演習」と「基礎体育学演習」について初めての試みとして、経験交流を実施。導入共通科目、保健体育科目、基礎共通科目、キャリア創生共通科目の授業改善アンケート結果及びティーチング・ポートフォリオを確認の上、それぞれの授業を振り返り、課題や成果を発表・議論し、授業の質向上を図った)

〈国際言語文化センター〉

○4/13 他 外国語教育担当者会議(各言語・科目のカリキュラム・ポリシーを担当教員全員で共有、教室現場で起きている問題を解決するために、言語ごとに担当者会議を開催。コロナウィルスの影響が拡大する中、WEB授業の方法等、改善を図るための情報提供、意見交換)○7/3 第50回言語教授法・カリキュラム開発研究会「オンラインを活用した外国語教育の実践」～学習者の自律学習の促進に向けて～○10/13 授業改善検討会・FD意見交換会○11/9 他 外国語教育担当者会議：言語ごとの担当者会議(WEB授業の方法等、改善を図るための情報提供、意見交換)

〈教職教育センター〉

○5/10及び10/18 授業改善を図るための制度的取り組みに関する検討会(授業改善アンケート結果(特に自由記述)とティーチングポートフォリオをもとに、各自の課題等について意見交換)

〈公認心理師養成センター〉

○7/20 一般社団法人日本公認心理師養成機関連盟第8回研修会参加報告(「心理実習」の事前・事後指導の充実が実習の成果に大きく影響、心理学を専門としない学生に対する事前・事後学習の内容を検討する必要性について議論)

〈法科大学院〉

○5/31 第1回FD委員会：授業参観の実施について○6/28 第1回拡大FD委員会 司法試験の問題に関する分析結果について○9/7 第2回拡大FD委員会①2021年度前期授業参観実施状況について②2021年度前期授業アンケートについて③2021年度前期授業・試験実施方法について(振り返り)○9/24 筑波大学との合同FD会議①2022年度以降の筑波大学・甲南大学連携科目について②令和3年司法試験合格者の傾向について③コロナ禍での授業・試験の実施方法について④課外での学習サポート・修了生の学習サポートについて○11/29 2021年度後期授業参観及び後期授業アンケートについて

さらに詳しい情報・報告はホームページへ！

大学トップ ▶ センター・研究所・図書館 ▶ FD-甲南大学のFDへの取り組み-

問い合わせ先

FD委員会ではFD活動やFDニュースについてご意見・ご要望を受け付けています。
 全学教育推進機構事務局 教育学習支援センター TEL078-435-2592(内線2812) MAIL lucks@adm.konan-u.ac.jp